梶田先生と振り返る思い出の一コマ Vol.25

東松山ぼたん園開園

1990(平成2)年

1990（平成2）年、市の花「ぼたん」の普及活動の一環として東松山ぼたん園が開園しました。開園当初は野田ぼたん公園という名称で、敷地面積は約6，500平方メートルでした。その後1999（平成11）年に拡張し、現在では約30，700平方メートルの面積を誇る関東有数のぼたん園となりました。2017（平成29）年には大型複合遊具がオープンし、幅広い年齢層に愛されています。

起伏のある丘陵に6,500株、150品種のぼたんが咲くんだよ。

ぼたん以外にも、ロウバイやアジサイ、イロハモミジやジュウガツザクラなど年間を通して季節の花が楽しめるよ。

キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画『漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ』のキャラクターたちです。

ニュートリノ三兄弟

電ちゃん　ミューやん　タウっち

梨花（姉）

歩（弟）

梶田隆章先生

東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。

田中理恵子（たなかりえこ）園長

埼玉県こども動物自然公園

動物ZOO鑑

～園長おすすめ　フラミンゴ～

雪が降ると…

2月10日に降った雪を覚えていますか？動物園の動物たちは雪なんてへっちゃら～もいれば冷たくて外になんか出たくな～いなど様々です。飼育係たちはどちらかというと「積もらないで～」が本音。なぜなら放飼場を覆うネットが雪の重さで切れてしまったり、ひどい時は支柱が折れたりするからです。そうなると直るまで動物たちを放飼場に出せなくなります。だから雪が降っている間はできる限りほうきや棒でネットをつついて雪を落として周ります。しかし、2月の雪は水分が多く重い雪でした。翌朝、フラミンゴコーナーのネットは無残にも崩壊してしまいました。

このネットはフラミンゴが外に出ないために覆われているのではなく、外から野生のカモやスズメなどが入らないようにするため。年々猛威を振るう鳥インフルエンザからフラミンゴたちを守る為、毎年スタッフが縦横無尽にテグス（釣り糸）をはり、その上にネットをかぶせています。ですから、すぐに直さなくてはなりません。他の動物担当の飼育係、ゲートスタッフも加わり、みんなで大改修作業が始まりました。前日から雪を避けて舎内に収容されていたフラミンゴたちは作業の様子をずっと見ていました。やっと改修が終わり、フラミンゴたちを放飼場に出すと、みんな一斉に羽繕いを始めたり、羽を広げたりとのびのびとしていました。

雪が降ると「動物舎は大丈夫かな？木が倒れてないかな？」と心配事が頭を巡ります。子どもの頃は「雪だるま作ろうかな？かまくらできるかな？」とワクワクでテンションが上がりっぱなしだったのにね。

雪の重さでネットが…

スタッフ総出で張り直し

羽を広げてのびのび